

# 令和3年度

## ふじのくにグローバル人材育成事業

# 成果報告書



ふじのくにグローバル人材育成基金で  
若者や教職員の「海外での学び」を応援しています

静岡県教育委員会





# 目次

ふじのくにグローバル人材育成事業概要等 1

支援企業・団体一覧 3

参加者等一覧 4

研修報告  
グローバルハイスクール 5

研修報告  
オンライン英会話プログラム 17

# ふじのくにグローバル人材育成事業概要

グローバル化が急速に進展する中で、高校生をはじめとする若者の海外留学や研修等を通じた、「世界に目を向けながら地域社会の発展に貢献できる」人材の育成が求められています。

また、子供たちの海外に対する知的好奇心を養うためには、国際感覚豊かな教職員による教育も重要です。

静岡県教育委員会では、2016年4月に「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、一人でも多くの高校生や教職員の「海外から学びたい」という希望を実現させるため支援しています。

## 国際感覚豊かな人材の育成

### 海外体験(留学)

高校生が意欲を持って、自ら進んで参加する留学の経費を支援します



### 海外インターンシップ

県内企業の海外事業所等における就労体験事業を支援します



### グローバルハイスクール

特色のある先進的なグローバル教育を展開する指定校を支援します

### 教職員の海外研修

海外の教育機関等において、指導力や専門性を向上させるための研究に取り組む教職員を支援します

### ものづくり世界大会

ものづくり等の世界大会に参加する高校生を支援します



## 事業内容

2016年度参加者を対象とした追跡調査等を踏まえ、海外インターンシップ（普通科含む）等の気軽に参加できる派遣機会の拡大、生徒の海外体験意欲を後押しする教職員の海外派遣機会の拡大、オンラインと実際の海外渡航をミックスした国際交流の3つの方針の基で事業計画し、2021年度から5年間で1,250人の高校生、教職員の海外体験を促進していきます。

区分	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績
派遣人数	97人	230人	222人	154人	82人	353人
事業費	18,879千円	37,993千円	36,636千円	36,601千円	4,527千円	45,000千円

区分	内容		2021年度実績	
国際感覚豊かな人材の育成	高校生の海外体験促進（留学）	長期留学 海外の教育機関等で語学などの専門分野の留学を体験 【期間】1年程度 【上限】30万円	募集中止	
		大学連携 海外大学と連携して、大学が実施する各種留学・語学研修等に参加 【期間】1週間以上1か月程度未満 【上限】30万円 <留学先>ジョージタウン大学	155人 春・夏開催 ※オンライン 英会話プログラム	
		短期留学 企画留学 学校、市町、NPO等の民間が実施する語学研修、ボランティア活動等に参加 【期間】1か月程度未満 【上限】30万円	募集中止	
		静岡県関連事業留学 県及び県教委が主催、共催、後援又は募集している事業に静岡県代表として参加 【上限】10万円	募集中止	
	教職員の海外研修	企画留学 教職員が海外の教育機関等で専門分野や現代的な課題の研究等を実施 【期間】1週間以上1か月程度未満 【上限】50万円	募集中止	
		県企画 「小学校英語対応海外研修」 小学校教員の英会話力向上、異文化や共生教育への理解に向けた海外でのマンツーマン語学研修を実施 【期間】1週間以上1か月程度未満 【県実施】全額県負担	募集中止	
	グローバルハイスクール	学校の特徴を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定 【指定校数】7校 【指定期間】2年程度 【上限】200万円～300万円	6校141人 ※海外派遣無 (静岡城北、藤枝西、静岡聖光学院、浜松湖東、浜松湖南、静岡県西遠女子学園)	
	ものづくりの次代を担う人材の育成	海外インターンシップ	普通科 県内企業の海外支社等における就労体験等を実施 【県内企業研修】2日間 【海外就労体験】3泊4日 【県実施】全額県負担	52人 +教員5人
			専門学科等 県内企業の海外工場における就労体験等を実施 【県内企業研修】2日間 【海外就労体験】3泊4日 【県実施】全額県負担	
		ものづくり等世界大会 ロボット競技等のものづくりに関する世界大会へ参加 【対象】専門高校等の生徒 5人程度（1チーム） 【上限】30万円（国内開催は10万円）	募集中止	

※ 2021年度は新型コロナウイルス感染症対策として、4月から準備が必要な海外派遣は中止（長期留学、教職員海外研修等）。年度後半に実施可能な海外派遣についても中止。（短期留学、海外インターンシップ）

※ グローバルハイスクールは6校を指定し、オンライン交流を含めた国内中心の国内中心型での課題研究を実施。

※ 大学連携企画留学は、ジョージタウン大学のオンライン英会話プログラムを8月と3月に実施し、合計で155人の生徒が参加。

※ 海外インターンシップは、国際業務などについて、静岡銀行本部及び香港支店をオンラインで結び交流を実施。



● 公益財団法人 ●  
はこも教育研究奨励会

明産株式会社

一般社団法人

静岡県信用金庫協会



スルガ銀行

静岡県遊技業協同組合

国際ソロプチミスト駿河

*Dream with you.*



静岡銀行



Z-KAI Group



清水銀行



**Kobayashi**  
富士から世界へ 小林製作所



清水埠頭株式会社



Shizuoka Information Processing Center  
株式会社静岡情報処理センター



公益財団法人

日本教育公務員弘済会  
静岡支部



田子の浦埠頭株式会社

**Jatco**



清水コンテナターミナル  
株式会社



NTT西日本



Shizu  
tetsu

街にいろどりを。人にときめきを。

沼津埠頭株式会社



静岡新聞 SBS



net one

フコクイロ 日興製薬株式会社

富士トラック株式会社

有限会社

メディカルアイカイ



百年住宅



遠鉄システムサービス株式会社

pure natural

APPLE HOUSE



浜松光電株式会社

浜松バス株式会社



松葉倉庫  
株式会社

静岡県高等学校長協会／静岡県高等学校等副校長・教頭会／静岡県公立高等学校事務職員協会／  
学校関係団体（同窓会、後援会等）／ふじのくに応援寄附者（個人支援者）

# グローバル人材育成事業 参加者等一覧

## 1 グローバルハイスクール

学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研究機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定しています。令和3年度の各指定校の取組をまとめました。

学校名	期間	掲載ページ
静岡城北	令和3年度～	5
藤枝西	令和元年度～	7
静岡聖光学院	令和3年度～	9
浜松湖東	令和3年度～	11
浜松湖南	令和2年度～	13
静岡県西遠女子学園	令和2年度～	15

## 2 オンライン英会話プログラム

新型コロナウイルス感染症により大学連携企画留学が中止となる中、令和3年度の代替プログラムとして、アメリカ合衆国のジョージタウン大学との連携により、オンライン英会話プログラムを実施しました。参加した高校生のうち2人に取材し、感想等をまとめました。

学校名	氏名（敬称略）	期間	掲載ページ
榛原	小神 卓充	令和3年7月27日～令和3年8月7日	19
不二聖心女子学院	前田 璃香	令和3年8月10日～令和3年8月21日	20

# グローバルハイスクール

グローバル化する社会に目を向け、地域の課題をグローバルな視点でとらえ、解決方法を模索しながら行動する人材の育成

静岡県立静岡城北高等学校



## 1 グローバル教育の概要

本校では、昨今の社会情勢やニーズを踏まえて国際科の学科改善を行い、令和3年度静岡県内の公立高校初のグローバル科をスタートさせた。グローバル科では、様々な活動を通して「グローバル化に伴う世界と地域の課題解決に行動する人」の育成を目指し、地域社会での課題解決のために、生徒が有する高い語学力、積極的な行動力と異文化に対する豊かな好奇心を活用する機会を提供している。さらに、普通科生徒がその経験を共有することにより、全生徒が身近な地域社会にある課題に注目し、その解決方法を考え、行動を起こすきっかけとなる仕組み作りに取り組んでいる。

## 2 実施計画と具体的内容

### 【地域研究課題】

グローバルな視点で静岡のグローバル課題を解決し、静岡の魅力を発信する。地域の現状とグローバル化が進む県内産業界を探究し、そこで得た知識を英語で発信する。県内で暮らす外国出身の方々や、海外に顧客を持つ県内で働く方々からお話をうかがうことをきっかけとして、グローバル化によって生じている静岡県内の課題に気づき、その解決方法を考え、実際に行動することを目指す。

### 【国際性の育成】

グローバル課題解決に必要なグローバルな視野と確かな英語力を身に付ける。そのために、海外研修や外国人との交流活動を企画し、生徒が英語を使って意思伝達をする機会を設定する。

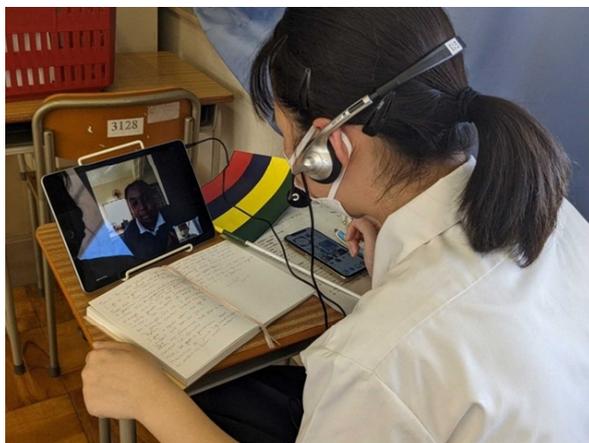
## 3 令和3年度の取組

### 【地域研究課題】

- (1) グローバル科1年生を対象に、静岡でグローバルに活躍している職業人3人を招き英語の仕事見本市を実施（6月）、第1学年総合探究発表会で英語による発表（9月）
- (2) 国際科2・3年希望生徒が9か国の高校生と地域の課題についてオンライン交流（9月）
- (3) グローバル科1年生を対象にグローバル研修として清水港・静岡空港にて訪問研修（12月）

### 【国際性の育成】

- (1) グローバル科1年生を対象に、米国デルタ航空職員によるオンライン社会見学を実施（6月）
- (2) 静岡市オリ・パラホストタウン交流として、希望生徒を対象に、モーリシャス Loreto College Bambous Virieux 校とのオンライン個別交流を実施（8月、10月、1月）
- (3) グローバル/国際科1・2年生を対象に、台湾高雄市立新莊高級中学との交流（10月～1月）
- (4) グローバル/国際科1・2年生を対象に、英語朗読家の青谷優子氏を招きグローバル科講演会



モーリシャスの高校生とのオンライン交流





## 1 グローバル教育の概要

本校では、校訓『自律 敬愛』のもと、調和のとれた人格の完成を目指し、地域や国際社会に貢献できる人材の育成を推進し、地域や国際社会の中で自己の能力を発揮できる生徒を育てることに力を入れている。

従来から本校では、年5～10名程の生徒が長期・短期の海外留学を経験してきた。形態としては、市町が主催する海外留学事業や民間企業が企画・実施する海外プログラムへの参加など、様々である。このような、実際に留学経験を積む生徒に加え、海外への興味・関心がある生徒が各学年に一定数見込まれる中、本事業の指定をいただくことができた。

本校では国際理解、異文化理解の醸成を図るための方策として、校内に「留学コーナー」を設置するなど、各種関連情報を適時提供している。また、外国語（英語）や総合的な探究の時間（本校では「究タイム」と呼んでいる）を中心に、教科横断的に国際理解教育を強力に推進しているところである。

## 2 実施計画と具体的内容

令和元年度及び翌2年度は、コロナ禍で海外への短期留学が叶わない中、諸外国（とりわけ藤枝市が姉妹提携を結んでいるオーストラリアのペンリス市）と藤枝市に関して「街づくり」、「環境問題」、「教育問題」等多岐に渡る比較・探究を行い、併せてグローバル感覚の育成を図る様々なプログラムを実施してきた。

令和3年度は、2年間の探究活動をベースにして、第一には海外への短期留学を念頭に置いたグローバルハイスクール事業を核として立案した。具体的にはコロナ禍の影響が比較的軽微でありかつ英語圏であるマレーシアを留学先として選定し、日本とマレーシア双方の諸問題や相違点について検証し、現地の高校生とのオンラインによる事前の意見交換も計画した。しかし、残念ながら令和3年度についても、新型コロナウイルス感染状況が芳しくなく、この海外留学は叶わぬ状況となり、留学を疑似体験できる国内施設を活用するなどし、外国人留学生等との交流を実施するという計画変更を行った。活動の場は国内に限定されることになるが、世界と日本との多面的な比較を通して、研究テーマである「日本人としての国際社会での役割」とは何かについて迫るとともに、英語力の向上と国際理解力の養成を図り、グローバル人材育成を目指す。

## 3 各年度における取組

### (1) 令和元年度 『組織体制の確立とオーストラリアペンリス市訪問への準備』

国際交流担当職員及び訪問団担当（正・副）の任命、藤枝市及び同国際友好協会等の関係機関との連絡調整、支援依頼の実施（4月）。「第1回訪問団」参加生徒の募集と選考、結成（6月）。全12回の事前研修を実施（通年）。ペンリス市高校生訪問団の来校、交流会の実施（10月）。ペンリス市出発前、藤枝市長を表敬訪問（2月）。3月予定のペンリス市訪問及びはコロナ禍によりやむなく中止。

### (2) 令和2年度 『来るべき、海外での国際交流に備えた国際理解の推進』

グローバルワークショップ「ALTによる英会話レッスン及び世界について考える」の実施（6月～11月）。藤枝市在住ALT5名によるイングリッシュサマーキャンプの実施（8月）。全3回の土

曜グローバルプログラムの実施（9月～12月）。エンパワーメントプログラムの実施（12月）。

(3) 令和3年度（本年度）『国際比較を通して、「日本人としての国際社会での役割」を考える』

グローバル講話「世界の文化と暮らし出前教室」の実施（3年生6月、1年生10月、2年生11月）。静岡県教育委員会、藤枝市及び掛川市教育委員会所属ALT 5名によるイングリッシュサマーキャンプの実施（8月）。グローバルワークショップの実施（9月「中国語を話そう」、10月「南北アメリカ大陸紀行～言語と文化について～」、11月「ペルーでの暮らしから」）。エンパワーメントプログラムの実施（12月）。熱海市をフィールドとする国内グローバル留学（3月予定）。



グローバル講話「フィリピンの文化」



イングリッシュサマーキャンプ



グローバルワークショップ「中国語を話そう」



エンパワーメントプログラム

#### 4 研究の成果と課題

令和元年度に指定いただいた本事業において、初年度実施寸前で中止せざるを得なくなったオーストラリアのペンリス市への留学（藤枝市との連携事業でもあった）を始めとして、コロナ禍により海外での研修が一度も叶わなかったのは、残念であった。令和2、3年度においても状況が好転しない中、国内でできるグローバル人材育成に資する活動を模索し、実施してきた。その中で英語圏のみならず、ラテン語圏（ブラジル、ペルー等）やアジア圏（フィリピン、中国等）にも研修の幅を広げることができ、多様な学びへの発展が図られている。これらを含め今年度実施の各プログラムに参加した生徒たちの満足度は、いずれも非常に高かった。3月実施を予定している2泊3日の国内グローバル留学を是非とも成功裏に終え、事業の集大成としたい。

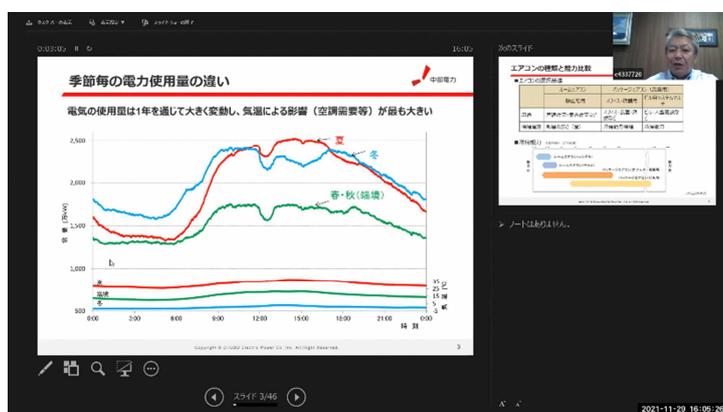


## 1 グローバル教育の概要

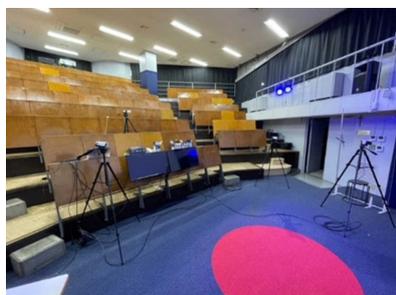
本校では Global Immersion プログラムを設立し、良質なインプットとアウトプットでゼロベースからの実践的な英語習得を実現する英語教育と、生徒の自主性を促す个性的で多種多様な国際交流を実施しています。言語や文化を超えて世界中の人たちと協働・共創する経験は、自分と世界の触れ合う範囲を広げてグローバルな視野を開きます。海外大学進学をサポート体制も整え、世界の課題解決に挑戦し貢献することを目指しています。

## 2 実施計画と具体的内容

地球温暖化にストップをかけるために効果的・効率的なエネルギーの使用が求められています。エアコンの使用(温度設定)と電力・気候変動とのかかわりについて調査し、社会に広く発信します。将来的にはグレタさんのように社会運動をけん引できるような人材を育成することを目指します。



- ・ 中部電力株式会社よりエアコンの温度設定と環境に与える影響について話を伺う。
- ・ 海外の学校(オーストラリア・インドネシア・マレーシア・タイ・ブルネイ)と交流をし、エアコンの使用・エネルギー使用への関心の度合いについて調査する。
- ・ 調査内容について発表する。
- ・ エネルギー問題の理解と主体的な問題解決行動のためにオンラインやVRなどICT機器を活用しより対話的、体験的学習形態を取り入れて実施する。
- ・ 可能であれば社会運動のようなものにつなげていく。



### 3 各年度における取組

- 1年目 国内・オーストラリア・インドネシア・ブルネイのエネルギー使用等について理解をする  
エネルギー使用が環境にどのような影響を与えるか理解をする。
- 2年目 静岡県内でサミットを実施し、気候変動とエネルギーの使用について広く理解をしてもらう。  
可能であれば交流先の学校にも静岡に来てもらいたい。  
持続可能な地球環境実現のための共同声明を行い、社会運動をおこす。

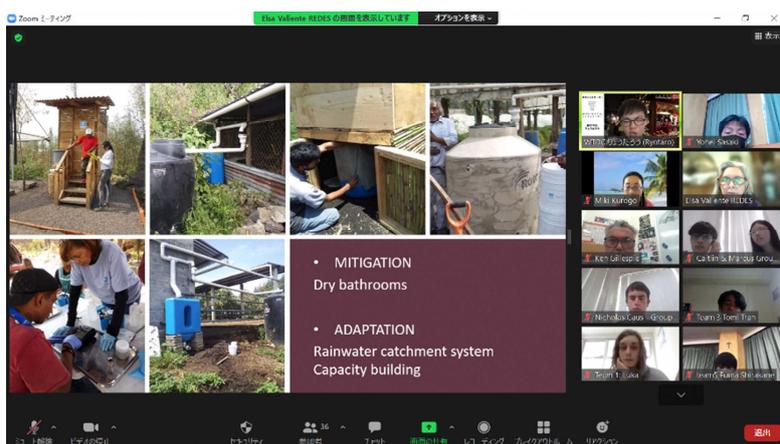
### 4 研究の成果と課題

中部電力株式会社佐々木敏春常務執行役員静岡支店長にエアコンの温度設定とエネルギー消費についてお話を伺い、日本のエネルギー使用について理解と考察をしました。

具体的には、日本におけるエネルギー消費の現状や、今抱えている課題を共有いただきました。生徒から具体的に身近にできる取り組みを発表してアドバイスをもらい、日本のみならず、海外においても実施可能で、よりグローバルな視点を持って実施できるアクションなのかを検討しました。専門的な知見を聞くことができたため、生徒達は単に本やインターネットで調べるだけでは考えることができなかったことや、確認できなかったことを話すことができました。

その上で、オーストラリア Fort Street ハイスクールとオンラインで2度交流をし、各国のエアコン使用について理解をしました。各国の気候、地理的条件や社会の違いによって抱える課題や問題意識が違うことを知る機会になりました。エアコンの温度設定に関わる外的要因について知ることができました。

今後インドネシア・ブルネイの学校と交流・意見交換を予定しています。



格差や差別で困っている人と接することで社会問題を理解し、  
自分との関わりを体験を通して学んでいく。

静岡県立浜松湖東高等学校



## 1 グローバル教育の概要

外国人労働者を多く受け入れている地域として、人種や差異を超えて互いに助け合い、共生できる社会の実現を目指す必要がある。このような多文化化した新しい社会を支えていく世代には、グローバルな視点を持った生き方や在り方を考え、選択していくことが求められる。浜松湖東高校では探究活動を推進し、おもに子ども学習支援と、フェアトレードという2つの軸で活動を行っている。子ども学習支援「コトバショ」では外国籍やひとり親世帯で経済的に恵まれない子どもへの支援を行い、生徒が運営を行ってきた。フェアトレードはコーヒーの公正な取引について学び、環境負荷について調査し、社会的認知度を高めることを目的としている。

## 2 実施計画と具体的内容

<コトバショ>

【目的】子どもの貧困を学び、格差を是正する取り組み

【内容】

- ・すべての子どもに対する学習支援
- ・神久呂協働センターにて11月より月2回の実施
- ・参加者（中学生3人、小学生1人）、運営高校生22人

【活動】

- ・社会福祉協議会からのアドバイス、支援
- ・JICA講座にて国際理解についての学習
- ・聖隷クリストファー大学学生によるアドバイス、監督運営補助
- ・宣伝（ポスター作製、中学校訪問、PR動画作成）
- ・地域の子ども食堂や、学習支援ボランティアへの参加

【今後】

- ・外国語のポスターの作成

<フェアトレード>

【目的】フェア（公正）な社会づくり

【内容】フェアトレードについての学習→アンフェアなトレードが社会と環境に与える影響の調査

【活動】

- ・コーヒー輸入販売業者の講演、打ち合わせの日程・内容及び活動方針の決定
- ・JICA国際理解ワークショップ参加によるフェアトレードの基本学習
- ・店舗での販売研修→パッケージ制作、宣伝、焙煎体験
- ・東ティモールオンラインツアーへの参加
- ・フェアトレード動画制作

#### 【今後】

- ・ 徳之島コーヒー農園、ラオスコーヒー農園(来年)の研修
- ・ 文化祭で販売・発表

### 3 各年度における取組

コトバシヨの運営を継続し、さらに参加者の募集に力を入れる。また引き続き子どもの貧困や外国籍の子どものおかれた現状を調査し、講座などに参加して学びを深めると同時に、外部への発信を行う。フェアトレードは、今年度中止になったラオスのコーヒー農園での研修を来年度は行う予定で、徳之島の自然農法で行われている栽培と比較して、フェアでないトレードが人と環境に与える影響について比較調査する。またフェアトレードの認知度を上げるための発信を行う。

### 4 研究の成果と課題

#### 【成果】

- ・ 社会問題に関心を持ち、自らできることを考え行動に移すことができるようになった。
- ・ 外国人労働者や貧困・差別について思いをはせることで、商品購入の指標(商品の背景が見える)とすることができるようになった。
- ・ 人権についての理解が深まった。(子ども、外国人)

#### 【課題】

- ・ 外国人との直接の関わりが少なかったことが課題であるが、日本の中で見えていなかった自分と外国人との関わりや問題、その文化や生活に触れることができた。





## 1 グローバル教育の概要

浜松湖南高等学校は、南米（ブラジル等）やアジア（フィリピン、ベトナム等）にルーツを持つ住民が多く多文化共生が進む浜松に位置している。さらに、県内で唯一の英語学科と普通科を併置する公立高校であり、地域の英語教育及び国際交流教育の拠点校である。グローバルハイスクール指定を受け、「災害時の多文化共生」と「国際交流活動・異文化理解教育」を柱とした探究活動に取り組んでいる。

## 2 実施計画と具体的内容

### 【災害時の多文化共生に向けて】

外部関係機関の協力を得て、地震等の災害時に高齢者や外国人をはじめとする社会的弱者が、どのような状況になり、どのような不安を持つかを調査し、理解する。様々な世代や出身地から文化的背景の異なる人々が集まる避難所を運営し支援する上で気を付けるべき点を研究し、緊急時に生かせる知見を校内外に共有する。

### 【国際交流活動・異文化理解教育】

当初は英国の姉妹校ヘンドン校との交流を大きな柱と考えていたが、新型コロナウイルス感染症拡大により実際の派遣及び受入れは不可能となった。そこで、終息後のスムーズな交流再開に資するよう、ICT環境を整え Zoom やメールを活用したオンライン交流と、手紙や英字新聞によるオフライン交流を融合して継続するとともに、他県の国際交流教育の実績のある学校を視察し、先進事例を学んで本校のこれからの国際交流教育に生かしていく。また、総合的な探究の時間において、国際理解研修の実施や、課外の希望者対象プログラムへの積極的参加を呼びかけるなどして、英語学科の生徒だけでなく、普通科の生徒にも英語学科のノウハウやレガシーを波及させる。併せて、英語科の職員全員で目標の共有や授業改善のための研修を積み重ね、生徒の英語運用能力向上を図る。

## 3 各年度における取組

### 【災害時の多文化共生に向けて】

#### (1) 令和2年度

- ア 令和元年度に静岡県被災研修に参加した生徒を中心に防災委員会設置（4月）
- イ 1、2年生防災委員が静岡県地震防災センター見学（7月） HUG（避難所運営ゲーム）研修受講（12月） 防災訓練終了後に防災委員長による研修報告（1月）
- ウ 英語学科2年生を対象に「外国人との共生の課題」について講演開催（9月）  
「災害時の外国人支援」のワークショップやクロスロード（被災地研修ゲーム）を体験（11月）
- エ 県立清水西高等学校（平成30・31年度静岡県学校防災推進校）を総務課（防災担当）教員が訪問（11月） 職員会議で報告（12月）

#### (2) 令和3年度

- ア 1、2年生防災委員と国際交流委員がHUG研修（7月） 「多文化共生×防災セミナー」受講（10月） 非常用脱出シューター研修、体験（11月） 防災委員と国際交流委員の指導の下、HR活動としてクロスロード実施（2月）
- イ 2年生防災委員2名が福島県の東日本大震災被災地研修（12月） 引率職員が職員会議で全職員への報告、情報提供（1月）

## 【国際交流活動・異文化理解教育】

### (1) 令和2年度

- ア 「総合的な探究の時間」を利用して、全1年生が英国姉妹校（ヘンドン校）について学習（4月）
- イ 英語学科1年生が2日間の「サマーセミナー」参加（8月）
- ウ 英語部作成の英字新聞をヘンドン校へ送付（11月）
- エ 英語学科2年生のオーストラリア語学研修を国内語学研修（富士ランゲージビレッジ）に変更して実施（12月）
- オ 英語学科・普通科希望生徒によるエンパワーメントプログラム実施（12月）
- カ その他の英語学科の交流事業
  - ・ 2年生が「異文化理解」の授業で県立大学遠隔授業を体験（7月）
  - ・ ALTのアメリカ在住の家族と1年生とのZoomによる対話（1月）
  - ・ ハリウッド在住脚本家と2年生のZoomによる対話（1月）
  - ・ アメリカの公立高校と2年生のオンライン交流（1月、3月）
  - ・ 三北杯静岡県高校生英語プレゼンテーション大会2021参加（3月）

### (2) 令和3年度

- ア 英語科職員が授業改善研修（6月、8月、11月、1月、2月）
- イ 1、2年生が国際理解研修受講（7月、12月）
- ウ 英語科生徒の交流事業
  - ・ 2年生が元NHKチーフアナウンサー花田恵吉氏オンライン講演会受講（7月）
  - ・ 3年生がスウェーデン在住の本校卒業生とZoomによる交流（9月）
  - ・ 2年生が日系ブラジル人浜松国際交流協会職員による多文化共生講座受講（10月）
  - ・ 2年生がはままつ国際理解教育ネット講師を招いて「SDGs×多文化のまち『浜松』」ワークショップ受講（12月）
- エ 1、2年生国際交流委員がヘンドン校とのZoomによる対話と文通（7月、12月）
- オ 英語学科1年生が2日間の「サマーセミナー」参加（8月）
- カ 英語学科2年生の3泊4日国内語学研修（富士河口湖町フジプレミアムリゾート）実施（12月）
- キ 普通科及び英語科の希望生徒による参加
  - ・ 校内英語スピーチコンテスト開催（7月）、上位入賞者が県西部地区（9月）及び県（10月）英語スピーチコンテスト出場
  - ・ 県主催ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム受講（8月）
  - ・ エンパワーメントプログラム実施（12月）

## 4 研究の成果と課題

この2年間、海外渡航こそ実現しなかったが、ICTや地元の課題や人材を活用して探究活動を展開することができた。防災や国際交流をテーマに、防災委員や英語科から始め、次第にその他の生徒や職員に学びを広げることができた。異なる背景をもつ多様な人々が共に生きていくグローバル社会を実現する人材育成をこれからも本校の使命としてきたい。



# グローバルハイスクール

現実と仮想のコミュニケーションを融合した地域と世界の課題研究

静岡県西遠女子学園



## 1 グローバル教育の概要

新型コロナウイルスの感染拡大により、社会状況の急速な変化が顕著になり、より変化しやすく、曖昧で複雑な社会課題が増加し、将来の予測が困難な時代になっている。国際的な交流やテクノロジーは、我々が直面する課題を解決するための重要な機会を提供してくれる一方で、新旧の方法論や価値観をうまく組み合わせる力が必要になっている。そこで、本研究では、生徒が現代に必要な能力を身につけるため、学園祭の課題探究型学習を発展させ、地域や世界の課題を題材にして、積極的に海外の人たちと交流しながら研究活動を行った。その過程を通して、国際的なコミュニケーション方法やICTスキルを学び、新しい思考方法や協働を経験しながら学習できるプログラムを開発することができた。

## 2 実施計画と具体的内容

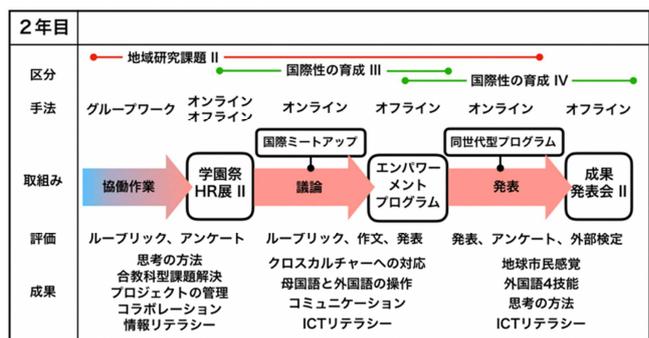
研究2年目として以下の目標を設定した。1) 地域の課題解決に教科の垣根を越えて全校で取り組み、より高い研究を目指す。2) 国際シンポジウム・カンファレンス等の開催を通して意見の共有・議論・解決策の提案ができる力を育成する。3) 多国籍、多世代、複数の参加者それぞれの背景を意識して会議などをファシリテートできる英語力を育成する。上記の目標に対して、オフラインとオンラインを組み合わせ、新型コロナ感染の拡大状況においても、生徒の経験や成果発表の場を確保できるようにプログラムを設計・実施した。

以下に実施内容をリストした。

1. 西遠国際カンファレンス1 (Seien International Conference I) ※参加者 418名 (併設中学含)
2. 西遠 OMO (Online Merges with Offline) 学園祭 クラス研究展示 (HR展) ※参加者 200名
3. 国際ミートアップ ※参加者 1年: 22名 2年: 19名
4. エンパワーメントプログラム (EMP) ※参加者 1年: 78名
5. クロスカルチャー・コミュニケーションワークショップ (C3W) ※参加予定者: 19名

## 3 各年度における取組

令和2年6月に西遠国際カンファレンス1 (成果発表会1) を行い、外部から講評をいただくかたちで1年目の研究内容を生徒と振り返った。10月の学園祭HR展では、地域と世界をテーマにした探究学習の成果をICTを駆使して多様な形で発表し、延べ430人の審査員による評価を行った。学園祭公式ウェブには9万ページビューのアクセスがあった。その後、学園祭のクラス研究テーマを題材として、豪州姉妹校の生徒と交流を行った。12月に高校1年生が、EMPを受講し、大学院留学生によるファシリテーションのもとで、議論・協働・プレゼンなどの21世紀型スキルを実際に使って課題に取り組んだ。1月末には、同世代型ワークショップを開催予定である。



## 4 研究の成果と課題

西遠国際カンファレンス1では、令和2年度のグローバルハイスクールの取り組みを中心に生徒が発表をした。生徒の感想には、コロナの影響で直接海外の人と交流することができなかったが、ICT利用など様々な方法で、海外の人たちと積極的に関わること気づいたという意見が複数あった。

西遠 OMO 学園祭の HR 展では、昨年度のオンライン学園祭を一步進めて、オンラインとオフラインの融合を目指した。具体的には、教室での制作物の作成や各クラスからオンラインプレゼンのライブ中継などである。全校生徒は、オンライン番組表から各クラス

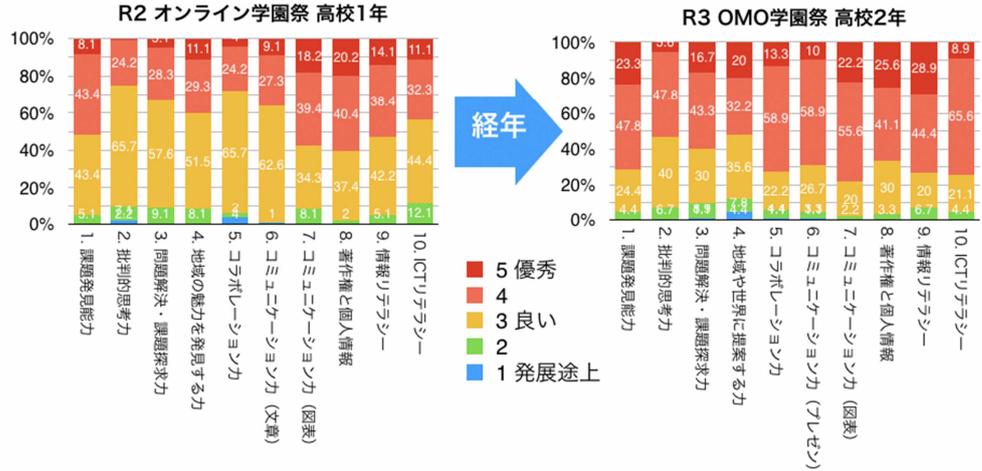


図1. 学園祭HR展における「21世紀型スキル」習熟度の経年比較 (教員ルーブリック評価)

の研究プレゼンを各自の ICT 端末で試聴した。図1. に現高校2年生の「21世紀型スキル」の習熟度を昨年と比較した結果を示した。多くの「21世紀型スキル」において教員の評価が上がっており、一年間で習熟度が向上していることが分かる。実際に生徒の様子を観察しても、コラボレーション力における ICT 技術の利活用方法が向上していることが見て取れる (図2.)。

【評価観点3】働く方法 コラボレーション力

評価尺度：一人一人が責任感を持って個々の役割を果たすと共に、他者を尊重し、課題解決に向けてやり抜くことができる

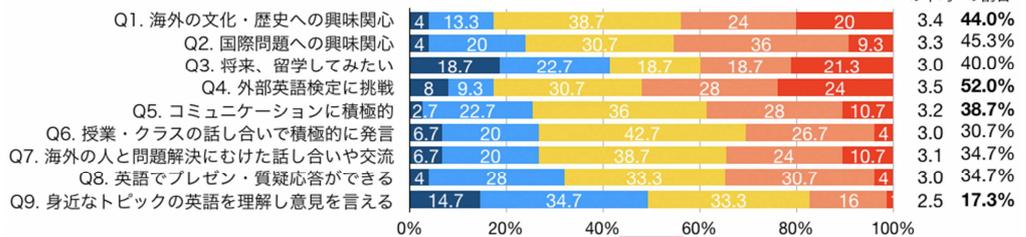


図2. 学園祭HR展におけるコラボレーション力の高度化

の苦手な生徒も含め多くの生徒が母語以外のコミュニケーションの楽しさと可能性を経験し、プログラムの事前と事後で国際交流や自分のキャリアに前向きな生徒の割合が大幅に増えた (図3.)。

今後の課題としては、様々なプログラムの中で生徒の内発的な動機を引き出す手法の確立と各教科との有機的な連携、そして研究終了後のプログラムの持続性があげられる。

エンパワーメント・プログラム 実施前



実施後

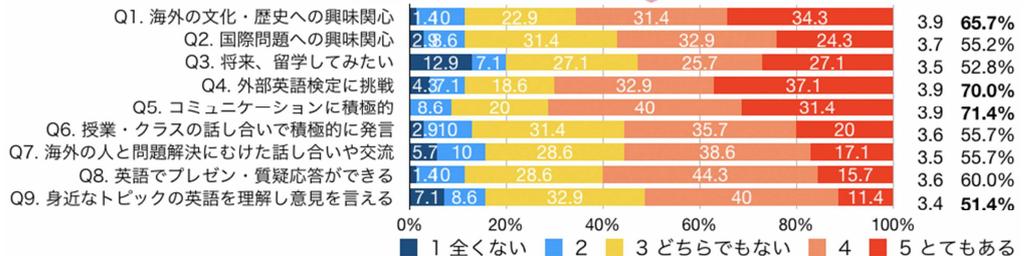


図3. エンパワーメントプログラム実施前後での生徒の意識関心の変化

# ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム (高校生の海外体験促進事業)

## 1 概要

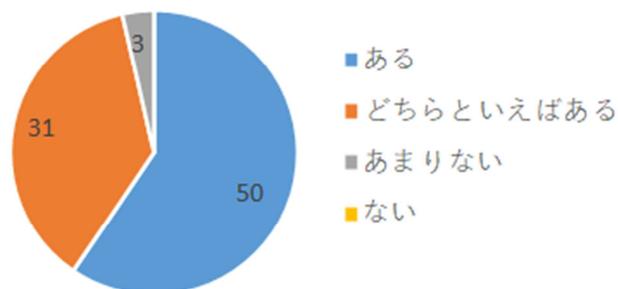
コロナウイルス感染症により大学連携企画留学が中止となる中、令和3年度の代替プログラムとして、ジョージタウン大学との連携により実現。

オンラインによるリスニング、スピーキングスキル等の向上及び多様な価値や異文化理解を図ることを目的として、自らの国際化に高い意欲・関心を有し、主体的に海外留学等の新しいチャレンジを志す県内高校生を対象に実施。

	内 容		
連携大学	ジョージタウン大学 (ワシントンD.C.) ※平成30年度から、ふじのくに地域・ 大学コンソーシアムと連携して海外 研修等を実施 		
コース名	American Conversational English Program (ACE Program) (ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム)		
実施内容	Zoom ミーティングによるオンライン英会話プログラム		
実施期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日90分、10日間、15時間のプログラム</li> <li>・ 授業時間 午前9時から10時30分 (日本時間)</li> <li>セッション① 令和3年7月27日(火)～8月7日(土)</li> <li>セッション② 令和3年8月10日(火)～8月21日(土)</li> </ul>		
応募要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語運用能力が、B1 CEFR以上の実力を有する者 (例) 実用英語技能検定 準1級～2級の間程度</li> <li>・ 各種英語資格・検定試験の4技能スコアにより判断</li> </ul>		
募集人数	最大100人 (各セッション50人)		
参加生徒数	90人 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle; border: none;"> <tr> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding-left: 10px;">                         セッション① 49人 (5クラス)                          セッション② 41人 (4クラス)                     </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前テスト (オンライン) により、習熟度別に分けて実施</li> </ul>	}	セッション① 49人 (5クラス) セッション② 41人 (4クラス)
}	セッション① 49人 (5クラス) セッション② 41人 (4クラス)		
実施形態	・ Zoom ミーティング、GoogleClassroom による教材配信		
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常生活での英語使用に焦点を当て、個人の関心事、アメリカの文化や政治などのトピックについて、各クラスで議論する。</li> <li>・ 議論の様子を基に、米国講師が各個人に英語の運用スキルについて、フィードバックを実施する。</li> <li>・ プログラム全体を通して、自信を持って英語を話す姿勢を身に付けるとともに、リスニング、スピーキングスキルの向上及び異文化理解を深める。</li> </ul>		

## 2 参加生徒への調査結果

英語4技能（聞く、読む、話す、書く）の中で、特に「聞く」「話す」ことを重視した研修内容でしたが、スピーキング力、リスニング力が向上したという実感はありますか。



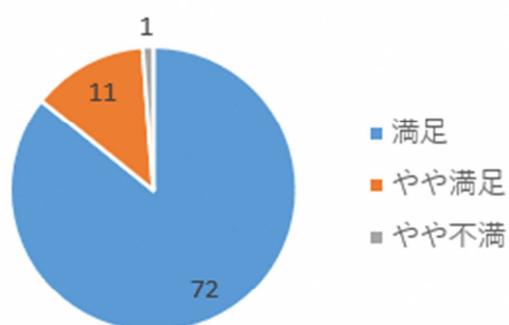
9割以上の受講者がスピーキング力、リスニング力が向上したと回答

今後、英語外部検定（英検・TOEFLなど）にチャレンジする意欲は高まりましたか。



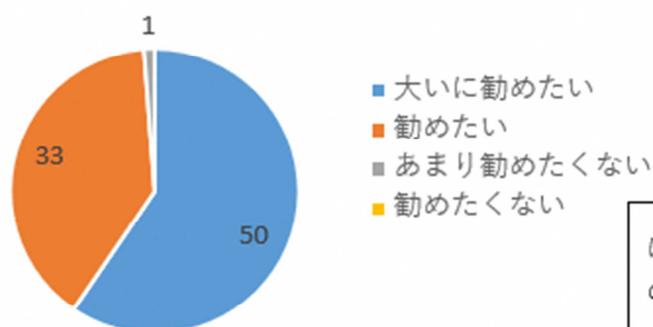
9割以上の受講者が英語外部検定（英検・TOEFLなど）にチャレンジする意欲が高まったと回答

研修の満足度はいかがでしたか。



ほとんどの受講者が研修に満足と回答

（次年度も同内容にて研修実施する場合）先輩や、後輩に対して、研修参加を勧めたいですか。



ほとんどの受講者が「研修を他の者に勧めたい」と回答

# ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム

静岡県立榛原高等学校 2年 小神 卓充

## 1 オンライン英会話プログラム（以下、プログラム）の学習内容

- ・間違いを恐れず、大きな声ではっきりと自分の意見を伝える大切さ
- ・自分の気持ちを伝える時に、難しい英語を使おうとせず、簡単な英文法で説明すること
- ・相手の話の内容を理解できるようにするために、単語力をしっかり身につけておく必要があること

## 2 プログラムによりスキルアップできたこと

- ・会話の時に、ジェスチャーを積極的に使えるようになった。
- ・外国人の方と、面と向かって物怖じせずしっかりと会話できるようになった。
- ・日本の文化だけでなく海外の方々の考えが理解でき、幅広い視野で物事が考えられるようになった。

## 3 今後、挑戦したいこと

今回のオンライン講座を受講したことで、日本に住む外国人の方の手助けとなれるような人材になりたいという思いも芽生えました。大学では、法律や政治を専攻したいと考えていますが、留学にもチャレンジして、日本と海外の文化的な違いや国際法を学んでいきたいです。また、日本だけでなく様々な国の方々と関わり、様々な人々の考えを受け入れられるようになりたいです。

## 4 感想等

今まで、英語のネイティブスピーカーと話した経験はほとんどなく、学校のALTの先生と少し会話をする程度でした。しかし、今回の英会話講座では、ジョージタウン大学という歴史ある大学の魅力的な先生方と会話したり、課題に取り組んだりして、楽しく英語や異文化を学ぶことができ充実した10日となりました。また、日本のアニメやお祭りなどの文化がアメリカでも受け入れられていることにも驚きました。コロナ禍で海外に行くことができない中、今回のオンライン講座はとても刺激的で、アメリカを身近に感じることができ、一生忘れられない思い出となりました。このような貴重な体験の機会を与えていただいた静岡県教育委員会の方々やジョージタウン大学の先生方に大変感謝しております。今回の講座で学んだことを生かして、これからも英語の勉強を頑張りたいと思います。



# ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム

不二聖心女子学院高等学校 1年 前田 璃香

## 1 オンライン英会話プログラム（以下、プログラム）の学習内容

- ・グループの中で、さらに少人数のグループに分かれ、自己紹介や自分の将来について話す
- ・日本の文化について写真とともに紹介
- ・昆虫を食糧とすることについての記事を読んでディスカッション
- ・発音を録音して先生に送る課題
- ・興味のあるアメリカのイベントや行事について調べ、プレゼンテーション

## 2 プログラムによりスキルアップできたこと

- ・自分の意見を言葉にして伝える力
- ・コミュニケーション力
- ・正しい英語の発音
- ・積極性
- ・多文化理解

## 3 今後、挑戦したいこと

プログラムを通して培った英語力を、学校の授業内、日々の生活で最大限に発揮するのはもちろん、さらに意欲的に、このようなプログラムに参加したいです。また、多文化についての理解、関心がとても高まったと感じるので、他国の方々との交流し、自分の視野を広げていきたいです。

将来、機会があれば、留学にもチャレンジしたいと考えています。

## 4 感想等

私は他校の方と関わる機会がほとんどなく、自分自身のコミュニケーション力、英語力にも自身がなかったのが、プログラム初日はとても不安でした。

けれど、言葉が詰まっても、優しくフォローし、アドバイスをくださる先生や、私の話を熱心に聞き、とてもよいリアクションをくれる9人の新しい友人のおかげで、10日間さまざまな面において成長することができました。画面を通してではありますが、アメリカの文化に実際に触れ、グローバルな視点を持つきっかけにもなりました。

また、私はまだ自分将来について、明確なビジョンがないのですが、グループでの将来についての

ディスカッションや先生の体験談を通し、刺激を受けるとともに、より真剣に、向き合うようになりました。未来の自分のためにも、英語に限らず、さらに意欲を持って勉学に励みたいと思います。

今回、このような素晴らしいプログラムを受講する機会を与えてくださり、本当に感謝しています。ありがとうございました。



# 令和3年度 「ふじのくにグローバル人材育成事業」 成果報告書

令和4年5月発行  
静岡県教育委員会  
〒420-8601  
静岡県静岡市葵区追手町9番6号



Sustainable Development Goals (SDGs) とは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。経済・社会・環境をめぐる課題について、17の目標と169のターゲットが示されています。

県教育委員会の取組は、主に目標4「すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に該当しています。